

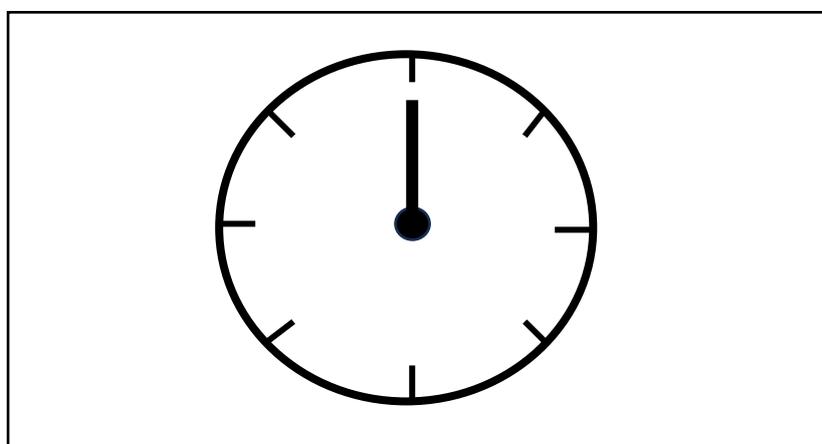
添付（3）①

貴重品運搬警備業務 2 級 「駐車場所及び運行中における周囲の警戒要領」 実技試験実施方法の変更について

1. 試験の解答方法の変更

解答は、警備員が貴重品運搬警備業務を実施する試験映像（約 6 分）を見ながら、10 区分の各場面における警戒要領の正誤について、答案用紙の「正しい」又は「誤り」のどちらかの□（チェックボックス）に✓（チェックマーク）を記入する方法とする。

解答は映像放映中に同時に行い、「やめ」の号令までとする。ただし、解答しやすいように、次の場面が始まるまで各場面終了時の映像が静止すると同時にタイマー（下図参照）が表示され、針が 10 秒で 1 周するので、この時間を活用するとよい。最終場面後のタイマーが 10 秒経過したら「やめ」の号令がかかり、解答時間終了となる。



2. 解答方法の変更に伴う実技訓練実施要領について

(1) 訓練目的

貴重品運搬警備業務実施中の警備員が行う「駐車場所及び運行中における周囲の警戒要領」について、正しい警戒要領をまとめた映像を見ながら、その要領を習得する。

(2) 実技訓練実施時間

40 分（映像の全再生時間は約 9 分）

(3) 訓練用映像の構成

① 全体の構成

ア 警備員が行う貴重品運搬警備業務の模範映像（約 7 分）

イ 実技試験の演習映像 4 場面（約 2 分）

② 模範映像の概要

模範映像は、警備輸送車両に乗務して取引先に向かうところから、銀行通用口へ至るまでの映像である。

添付（3）①

警備輸送車両（運行中）→平成銀行駐車場→現場離脱→平成銀行駐車場（通用口まで）の順に放映される。

③ 重要箇所の表示

模範映像では、重要箇所にさしかかると、画面上部に警戒要領のポイントがテロップ表示され、映像が約3秒間静止する。（下図参照）



④ 演習映像の概要

模範映像で触れた場面から4箇所を、実技試験同様に、正しい警戒要領又は誤りの警戒要領の映像として放映し、正誤の判定の演習を行う。

なお、演習映像と全く同一の映像は、実技試験では使用されない。

(4) 実技訓練実施要領

① 訓練の流れ

模範映像を放映する（パソコンでの再生は禁止）。映像中、重要箇所にさしかかると警戒要領のポイント（11箇所）がテロップ表示される。ただし、テロップは映像が静止した状態で約3秒間の表示なので、担当講師は映像を一時停止して解説を行うこととなる。

また時間配分によっては、一通り解説した後、次には模範映像を途中で止めずに放映するなど、再度の放映により重要ポイントや映像の内容を再確認してもよい。

模範映像による警戒要領の解説後は、実技訓練用答案用紙を配布（回収不要）して演習問題を解いてみる。ここで実技試験の実施要領を体験させるとともに、警戒要領が正しく理解できているか確認する。

② 模範映像中の表示テロップ及び主な映像の内容等

下表は警備員特別講習事業センターのサイボウズに掲載される。都道府県警備業協会を通じてデータを印刷、配布資料としてよい。また独自の資料に利用してもよい。

表示テロップ	
主な映像の内容、映像中の警備員の会話・通話等	
運行中も絶えず周囲の警戒を行う。	
「次の信号左折。」「次の信号左折、よし。」「前方、側方、異常なし。」…以降、省略…（以下「…」とする）	
定められた地点又は時刻に定所（定時）連絡を行う。	
「時間だ、定時連絡を行う。」「了解。」「新宿警備、新宿警備、こちらは新宿警備1。」「新宿警備1、新宿警備1、こちらは新宿警備、どうぞ。」「新宿警備1、12時00分、現在、ポイント5付近を通過、異常なし、どうぞ。」…	
不審者（車両）の特徴をメモし、正確に把握する。	
「あれ、駐車場に変な奴がいるな。」…「少し様子を見よう。とりあえず特徴をメモしておく。」…	
不審者、不審車両には安易に近づかない。	
映像：車内にいてメモを取りながら様子を見ている。	
特異情報を発見した場合には襲撃の恐れがあるため、警戒を強化するとともに、基地局へ即報し、その指示に従って行動する。	
「やっぱり怪しいな、基地局へ連絡する。」…「一度現場から離脱する件、了解。以上、こちらは新宿警備1。」…	
基地局に、不審者（車両）立ち去りの連絡をする。	
「いなくなったな。」…「基地局へ連絡する。」…「新宿警備、新宿警備、こちらは新宿警備1。」「新宿警備1、新宿警備1、こちらは新宿警備、どうぞ。」「新宿警備1、平成銀行に到着、不審車両は立ち去った模様、今から引渡しを開始する、どうぞ。」…	
下車前に警備員相互で誘導方法の打ち合わせをする。	
「それじゃあ運転席側の後方で誘導するから、そのままいつもの駐車場所までバックして。」「了解。」	
車内から周囲の安全を確認し、下車する。	
映像：助手席で前方、前上方、側方、側上方、後方を確認してから下車する。	
誘導中は、常に安全確認をおこなう。	
映像：常に左右に顔を向けながら誘導している。	
連携をとりながら、警戒もれのないよう行動する。	
映像：警戒しながら金庫室前から運転席の警備員へ下車の合図をし、警戒を継続、積卸し時は運転席から下車した警備員が代わって警戒する。	
携行中も警戒を継続する。	
映像：トランクを携行しながら、搬入口まで歩行警戒していく。	

添付（3）①

③ 演習映像 4 場面の内容

演習映像では、実技試験同様の方式で警戒要領の正誤を判定してみる。その際、下記の映像の内容や解答ルールについて周知しておく。

ア 試験映像の内容について

（ア）試験映像は、貴重品運搬警備業務を実施する一連の映像が 10 場面に分けて放映される。場面ごとに、模範映像でテロップ表示された重要ポイントのいずれか 1 つについて、正誤を問う映像となる。

（イ）各場面の映像は、正しい映像か、1 つ誤りがある映像か、のどちらかである。

（ウ）各場面の冒頭（場面の切り替わり時）は、新しい場面の開始を告げる通知音が流れて、画面左上の場面番号テロップ（下図参照）が変わる。

イ 正誤の判定についての注意点

（ア）1 つの場面に、模範映像でテロップ表示された重要ポイントの 2 つ以上が重なることはない。

（イ）各場面、その場面の映像終了まで放映された内容をもって、正誤を判定する。「その次にするはずの行動」が放映されなかったことを「しなかった」とみなし「誤り」と判定しないこと。次の場面でそれが放映される可能性もある。

ウ 解答のルール

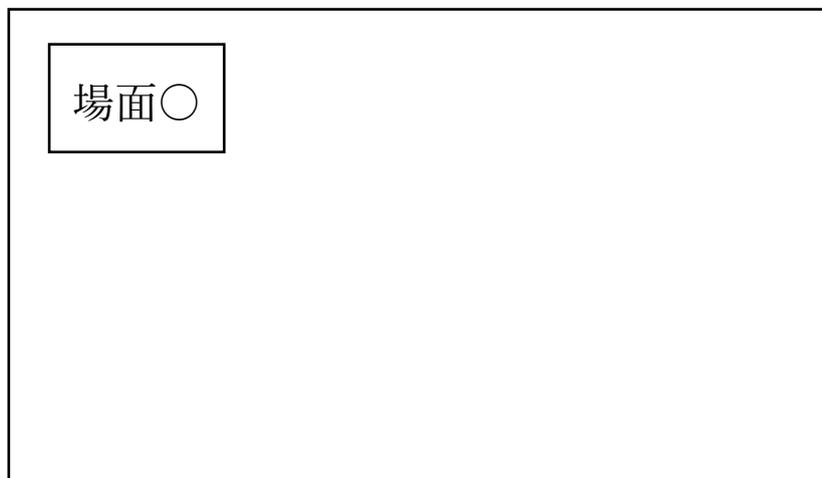
（ア）解答の記入は、映像放映中に同時に行い、「やめ」の号令までとする。それ以降の記入は不正行為とみなし、試験は失格とする。

（イ）解答しやすいように、次の場面が始まるまで各場面終了時の映像が静止すると同時にタイマーが 10 秒間表示されるので、この時間を活用するとよい。最終場面後のタイマーが 10 秒経過したら、「やめ」の号令で解答時間終了となる。

（ウ）解答は、答案用紙の「正しい」又は「誤り」のどちらかの□（チェックボックス）に✓（チェックマーク）を記入する方法とする。それ以外の解答方法は無効である。

（エ）実技試験の答案用紙には、受講番号、氏名、解答以外は記入しないこと。

（オ）解答の記入は鉛筆又はシャープペンシルを使用し、訂正する場合は消しゴムで綺麗に消すこと。



添付（3）①

※ 試験映像も訓練用映像同様、パソコンでの再生は禁止とする

号令は次のとおり。

「答案用紙にゼッケン番号と氏名を記入しなさい」

（全員の記入が終了後）

「只今から駐車場所及び運行中における周囲の警戒要領の実技訓練を実施する」

「映像を見ながら、助手席で勤務している警備員の警戒要領が『正しい』か『誤り』かを判定し、どちらかのチェックボックスにチェックマークを記入しなさい。それでは映像を放映する」

（最終場面のタイマー10秒経過後）

「やめ」

4場面の内容は下表のとおり。

場面	正しい警戒要領
正解	映像中の誤った警戒要領
場面1	不審者（車両）の特徴をメモし、正確に把握する。
正しい	
場面2	特異情報を発見した場合には襲撃の恐れがあるため、警戒を強化するとともに、基地局へ即報し、その指示に従って行動する。
正しい	
場面3	不審者、不審車両には安易に近づかない。
誤り	不審車両へ近づき、車内の不審者に声を掛けた。
場面4	連携をとりながら、警戒もれのないよう行動する。
誤り	積卸し時、警戒していない。